

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2024年4月期2Q	5,075,500 株	2023年4月期	5,075,500 株
------------	-------------	----------	-------------

期末自己株式数

2024年4月期2Q	31,763 株	2023年4月期	31,732 株
------------	----------	----------	----------

期中平均株式数(四半期累計)

2024年4月期2Q	5,043,768 株	2023年4月期2Q	5,043,797 株
------------	-------------	------------	-------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項などについては、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、社会・経済活動の活性化が一層進み、外国人旅行者のインバウンド需要や個人消費に持ち直しの動きがみられました。一方で、不安定な国際情勢による地政学リスクの影響、エネルギー価格の高止まり、人件費や物流費の上昇、金融情勢の変化や原材料価格等の高騰など、先行き不透明な状況が続いております。

食品業界においてもこうした事業環境の影響を受け、商品の値上げの波は収まらず、消費者の節約志向・低価格志向が強まり、依然として厳しい経営環境が続くものと推測されます。

このような状況のもと、当社グループは引き続き、安全・安心に重点をおいた包装米飯及び包装餅製品の安定供給、並びに適正価格での販売に努めることを基本に事業活動を推進してまいりました。具体的には、おいしさの追求はもちろんのこと、消費者の消費動向を捉えながら、拡大する商品需要に対応可能な生産体制の整備を進めるとともに、生活スタイルの変化や消費者ニーズの多様化といった市場変化に対応すべく、「米食回帰・健康維持・多様化をキーワードとした新たな食の創造」を引き続き提案し、全社一体となった営業活動に取り組むことで業績の拡大を図ってまいりました。また、包装米飯及び包装餅の通年需要の喚起を目的とした広告宣伝を継続的に実施することで、喫食機会とブランド認知の拡大に努めており、今後も、「プチ贅沢」、「健康・機能性」、「タイムパフォーマンス(タイパ)志向」などの多様な消費者ニーズに応える商品価値を提案してまいります。

他方、昨今のエネルギー・資材価格の急激な高騰及び物流費・人件費等の上昇を自社の企業努力だけで吸収し続けることは極めて困難であるとの判断により、包装米飯製品は2023年7月1日出荷分より、包装餅製品についても2023年9月1日出荷分より商品価格の改定を行っております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、主力製品である包装米飯が堅調に推移し、165億74百万円(前年同期比4.2%増)となりました。

利益面につきましては、各種調達価格等の高騰を要因として製造原価の増加があったものの、生産性の向上とコスト削減による収益性の改善や商品価格の改定を実施し適正利益の確保に努めたことなどから、営業利益は9億86百万円(前年同期比41.3%増)、経常利益は11億66百万円(前年同期比28.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は8億34百万円(前年同期比28.4%増)と、いずれも前年を上回る結果となりました。

製品分類別の販売動向

当社グループは、食品事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載を省略しておりますが、製品分類別における販売の動向は以下のとおりであります。

(包装米飯製品)

包装米飯製品は、近年の働き方や暮らし方の価値観の多様化による生活スタイルの変化に伴い、「タイムパフォーマンス志向」のニーズが高まったことで、家庭内での需要が拡大し、ストック及びレンジ調理が可能なパックごはんの販売は堅調に推移しております。また、世界的な穀物の価格高騰を受け、価格が比較的安定しているコメの存在感が高まり、米食に回帰する動きが活発化しております。

これらの消費動向の変化を背景に、まとめ買いニーズへの対応や食物繊維で始めるおいしい新健康生活の提案など様々な販売促進活動により、包装米飯製品の「家庭のご飯に代わる」日常食化に引き続き取り組んでまいりました。

また、さらなる需要喚起を目的に、2023年5月より人気お笑いコンビ「オードリー」を起用し「“ふっくら釜炊き”ごはんのおいしさ」を表現した新テレビCM『「釜炊き圧トウ的」篇』を全国放映しております。

これらの取り組みとともに、1988年の発売当初より「炊きたてのおいしさ」を目指してきた「サトウのごはん」がより多くの食卓に受け入れられ、パックごはん市場で確固たるブランドを確立したこと、さらに、電子レンジ調理などの簡便、時短調理等、家庭内での調理ニーズが多様化する中で、パックごはんが備蓄食ではなく日常食というポジションに変わってきていることも、売上高が堅調に推移した要因として捉えております。

その結果、包装米飯製品の売上高は123億47百万円(前年同期比6.9%増)となりました。

なお、当社は、約45億円を投じて当社のパックごはん専用工場である聖籠ファクトリー(新潟県北蒲原郡聖籠町)に新たな生産ラインを増設し、2024年の稼働時には年間4億食の生産能力を確保することで、将来的な需要拡大に対応してまいります。

(包装餅製品)

年末に需要が集中する鏡餅を中心に国内における包装餅製品は季節需要であり、また、新型ウイルス禍を背景とした内食需要の減退により包装餅市場全体は縮小傾向を見せ始めておりますが、当社グループは引き続き、

「ながモチフィルム」に代表される独自の強みを活かした販売提案や、様々なお餅の召し上がり方のご提案による通年需要の喚起を積極的に行う施策に取り組んでおります。

まず、切り餅につきましては、「プレミアムライン」・「レギュラーライン」・「トライアルライン」に、普段の生活や行動の範囲内で手を出しやすい、いわゆる“プチ贅沢”需要にお応えする「プライムライン」を加え、4つにセグメンテーションされた商品ラインナップを、全国にて展開しております。

マーケティングコミュニケーションにおいては、女優の芦田愛菜さんが、当社グループのみが個包装に使用している「ながモチフィルム」の特徴（鮮度保持剤なしでつきたての美味しさを24か月保持）を紹介するテレビCMや、「サトウの切り餅いっぽん」のスティック形状を活かした様々な召し上がり方を提案するテレビCMの継続的な放映及び、人気アニメクリエイターとタイアップした動画配信などに積極的に取り組んでおります。

また、人気アニメ「SPY×FAMILY」とコラボした特別企画商品「サトウの切り餅乳酸菌プラスSPY×FAMILYデザインパッケージ全2種」や、料理のトッピングやお鍋の具材として、食べやすい大きさの「サトウの切り餅シングルパックミニ300g」を市場に投入し、新たな顧客層の獲得に取り組んでまいりました。

次に、鏡餅につきましては、ダウンサイジング化が進む市場動向を踏まえて、「どこでも簡単に飾れる手頃なサイズの鏡餅！」をコンセプトとした、化粧箱入りの「サッと鏡餅」及び、置き場所を選ばない「小飾り」タイプの品揃え拡充を進めるとともに、取扱店の拡大に向けた取り組みの一環として、店舗にて商品を陳列する際に開封作業を軽減する「簡単！楽ちん段ボール」を採用し、流通各社への提案を拡充しております。

また、年末の最需要期に向けて、新潟発のアイドルグループ「Negicco」を起用した新テレビCM『「ハレバレ！もちもち！」篇』を2023年11月より全国へ順次放映しております。

このような取り組みの結果、当社グループ餅商品全体としては新型ウイルス禍以降も同水準の売上高を維持しており、包装餅製品の売上高は42億20百万円（前年同期比3.0%減）となりました。

なお当社グループは、ESGに対する社会的な問題意識の高まりを考慮し、年末に需要が集中する鏡餅については、本年度より受注締日をこれまでより早期に設定することで、過剰生産や製造現場における人材不足の課題を解消しつつ、環境配慮、フードロス・資材廃棄削減という流通業界全体の課題解決に取り組むとともに、鏡餅の伝統文化継承を持続的に展開できるよう努めてまいります。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は280億63百万円となり、前連結会計年度末に比べ92億89百万円増加いたしました。

これは主に仕掛品が2億85百万円減少したものの、商品及び製品が49億12百万円、売掛金が22億28百万円、現金及び預金が14億10百万円、原材料及び貯蔵品が8億41百万円増加したことによるものであります。

固定資産は207億34百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億36百万円増加いたしました。

これは主に投資有価証券の新規取得及び保有する投資有価証券の時価総額の増加により、投資有価証券が2億77百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は487億97百万円となり、前連結会計年度末に比べ95億25百万円増加いたしました。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は183億22百万円となり、前連結会計年度末に比べ89億79百万円増加いたしました。

これは主に未払金が3億8百万円減少したものの、運転資金としての短期借入金が64億50百万円、買掛金が26億28百万円、未払法人税等が1億84百万円増加したことによるものであります。

固定負債は114億82百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億85百万円減少いたしました。これは主に長期借入金の減少によるものであります。

この結果、負債合計は298億4百万円となり、前連結会計年度末に比べ87億93百万円増加いたしました。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末における株主資本は181億75百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億57百万円増加いたしました。増加要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益8億34百万円であり、減少要因は、剰余金の配当2億77百万円であります。

その他の包括利益累計額は8億17百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億74百万円増加いたしました。これは主に、その他有価証券評価差額金が、保有する投資有価証券の時価総額の増加により前連結会計年度末に比べ1億67百万円増加したことによるものであります。

この結果、純資産合計は189億92百万円となり、前連結会計年度末に比べ7億32百万円増加いたしました。

なお、自己資本比率は38.9%（前連結会計年度末は46.5%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年4月期の通期(2023年5月1日～2024年4月30日)の業績予想につきましては、「業績予想及び配当予想に関するお知らせ」(2023年9月12日公表)において公表いたしました通期の業績予想から変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,476,711	4,886,895
売掛金	7,750,616	9,979,291
商品及び製品	2,548,329	7,460,689
仕掛品	568,830	283,068
原材料及び貯蔵品	4,308,219	5,149,495
その他	128,539	304,119
貸倒引当金	△7,210	—
流動資産合計	18,774,037	28,063,559
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,350,980	5,208,058
機械装置及び運搬具（純額）	5,910,542	5,362,288
土地	2,322,208	2,322,208
その他（純額）	1,405,756	2,092,451
有形固定資産合計	14,989,487	14,985,007
無形固定資産	752,728	663,341
投資その他の資産		
投資有価証券	1,773,981	2,051,839
投資不動産（純額）	2,374,547	2,363,101
その他	636,030	699,781
貸倒引当金	△29,050	△29,050
投資その他の資産合計	4,755,510	5,085,671
固定資産合計	20,497,727	20,734,021
資産合計	39,271,764	48,797,580

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2023年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年10月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	787,412	3,416,323
短期借入金	—	6,450,000
1年内返済予定の長期借入金	3,498,614	3,643,658
未払金	3,590,432	3,282,068
未払法人税等	367,779	551,961
引当金	236,187	368,878
その他	862,458	609,373
流動負債合計	9,342,884	18,322,263
固定負債		
長期借入金	10,664,158	10,486,825
引当金	61,608	64,883
退職給付に係る負債	803,939	796,405
その他	138,498	134,499
固定負債合計	11,668,204	11,482,613
負債合計	21,011,088	29,804,876
純資産の部		
株主資本		
資本金	543,775	543,775
資本剰余金	506,000	506,000
利益剰余金	16,605,843	17,163,273
自己株式	△37,844	△38,019
株主資本合計	17,617,774	18,175,028
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	648,586	815,734
退職給付に係る調整累計額	△5,685	1,941
その他の包括利益累計額合計	642,901	817,675
純資産合計	18,260,675	18,992,704
負債純資産合計	39,271,764	48,797,580

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年10月31日)
売上高	15,906,261	16,574,547
売上原価	11,543,070	11,832,770
売上総利益	4,363,191	4,741,777
販売費及び一般管理費	3,664,831	3,755,331
営業利益	698,360	986,445
営業外収益		
受取利息	11	8
受取配当金	21,094	31,133
受取賃貸料	98,546	95,240
副産物収入	82,211	94,788
その他	80,149	60,281
営業外収益合計	282,013	281,452
営業外費用		
支払利息	17,573	35,629
賃貸費用	45,201	49,858
固定資産除却損	2,148	7,053
その他	10,515	8,560
営業外費用合計	75,439	101,102
経常利益	904,934	1,166,795
特別利益		
固定資産売却益	565	390
受取保険金	—	30,372
特別利益合計	565	30,763
税金等調整前四半期純利益	905,500	1,197,558
法人税、住民税及び事業税	382,231	507,075
法人税等調整額	△126,947	△144,353
法人税等合計	255,283	362,722
四半期純利益	650,216	834,836
親会社株主に帰属する四半期純利益	650,216	834,836

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年10月31日)
四半期純利益	650,216	834,836
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	28,080	167,147
退職給付に係る調整額	16,719	7,626
その他の包括利益合計	44,799	174,773
四半期包括利益	695,015	1,009,610
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	695,015	1,009,610
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。